

# 平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立千代田小学校 学級数 7

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標  
心ゆたかに すすんで 学ぶ子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

## 取組の概要

- 1 取組のきっかけ  
学力検査、知能検査などで、上位グループと下位グループに大きく二極分化の傾向が見られ、下位グループの底上げが必要と判断した。
- 2 取組の方法
  - 朝自習、朝読書の充実
    - ・ 全校で統一した取組……月水金を朝読書、火木を朝自習
    - ・ 読書好きな子が増加傾向
    - ・ 読解力、表現力の育成に繋がるよう、作文や意見交流に応用していきたい
    - ・ 朝自習…ドリル的な学習が中心だが、内容についてはさらに全体交流が必要
  - 学習常規の確立
    - ・ 子どもに対する十分な説明
    - ・ 約束事を掲示して、効率の良い授業を確立する。
  - 個に応じた学習指導
    - ・ T T、支援員、学生ボランティアの活用  
算数を中心にしたT T指導の工夫  
少人数指導、習熟度別学習など早急に検討に入る
    - ・ 希望児童への補習学習  
中休み、T Tルームを開放し、自主的に学ぶ環境を設定  
放課後、個別の配慮を要する子どもに指導
  - 長期休業中の学習会
    - ・ 夏、冬休業中、各3日。自由参加（24年夏は参加率18%）
  - 家庭学習の取組
    - ・ 「家庭学習の手引き」を全世帯に配布  
内容は現在担任裁量だが、一斉的な宿題、個に応じた課題やプリント以外の取組など、工夫改善の余地があり、検討の必要がある。
  - 学力検査の分析を活かす
    - ・ 2年生以上の全学年、算数科のC R Tを実施。学力学習状況調査やチャレンジテストの結果も合わせて、領域、観点別に傾向を分析。指導に活かす
  - 学習意欲の喚起
    - ・ 長期的に学習を主体的に取り組ませるためには、学ぶ意義や目的をつかみ、目標を持たせることが大切である。
    - ・ 見通しをもって学習できるよう、担任による興味関心の投げかけ、学習の進め方など、研修の中で論議を深めている。

## 取組の成果と課題等

### ○ 取組の成果

- 個に応じた学習指導。

成果

- ・ T T、特別支援教育支援員、学生ボランティアを活用して学力向上に取り組んだ結果、校内の共通理解が深まり、協力体制が確立した。
- ・ 算数科において、習熟度別による少人数学習体制を第4学年、第5学年で実施した結果、子どもの学習に対する集中度、学習意欲が向上した。

- 長期休業中の学習会

成果

- ・ 夏・冬休業中の3日の学習会で、子どもの意欲が高まり、参加人数も増えつつある。
- ・ 冬季は休み初めと終わりの2回にわけ、目的に応じた効果的学習支援ができた。

- 家庭学習の取組

成果

- ・ 家庭学習の手引きを全世帯に配布し、担任裁量だけに終わらず、全校的な取り組みませ方の必要性を認識し、検討を進めることとなった。
- ・ 家庭学習アンケートを実施し、学習した時間を記録させ、分析（現在分析中）
- ・ 教務を中心に、各担任から宿題の出し方、内容を集め、学校としての統一した方向性を検討

### ○ 教育課程検証の方法

- ・ 習熟度別選択学習で児童の意識アンケートを実施  
（\*苦手なところをじっくりできる \*自分のペースに合わせて学習できる など好評）
- ・ 学校評価の項目を工夫し、児童や教員で共通部分を多くし、わかりやすくする。